

令和5年度実施

令和4年度教育委員会事務事業点検・評価報告書

令和5年8月

苫前町教育委員会

目 次

はじめに	苦前町教育委員会 教育長 開 発 法 起	1
1	実施方法	
	(1) 点検及び評価の対象及び方法	2
	(2) 評価実施の流れ	2
	点検項目及び評価項目一覧	3
2	点検及び評価の対象	
	(1) 内部評価	4
	(2) 外部評価	16
3	教育委員会の活動状況	
	(1) 教育委員会の構成	18
	(2) 会議開催状況	18
	《資料編》	
	苦前町教育目標	20
	教育委員会各課の事務分掌	21

はじめに

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、前年度に実施した事務事業について、学識経験者の知見を活かして点検及び評価を行い、作成・公表するものです。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により教育では様々な面で制約がありましたが、ICTの活用などにより可能な限り学びを止めない姿勢をもって施策を推進いたしました。学校においては、GIGAスクール構想により整備した1人1台端末を活用し、児童生徒が欠席を余儀なくされた場合の学びの保障に備えました。また、社会教育においても遠隔による学習機会の提供や地域コミュニティの維持など、新たな事業展開を模索し続けております。

急速に変化し続ける現代社会では、学校や家庭、地域の課題は、多様化、複雑化しております。これらの諸課題に柔軟に対応していくためには、教育関係者だけでなく地域住民も一体となり、共通認識のもとPDCAサイクルを回していく必要があります。今後とも教育行政のさらなる充実に向け、取り組みを進めるための努力をして参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

苫前町教育委員会教育長 開発法起

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 実施方法

(1) 点検及び評価の対象

点検及び評価の対象とする事務事業は、前年度の事務事業のうち、教育行政の推進上重要な課題に係るもの、その他点検及び評価を行うことが必要と認める事務事業を対象としています。

今回は、令和4年度の施策体系をベースとした事務事業について、点検及び評価を行いました（点検及び評価項目一覧は、別頁のとおり）。

点検及び評価にあたっては、各項目の目標達成に向けた、施策・事業の内容と実績を明らかにするとともに、その成果と課題等を示しました。

(2) 評価実施の流れ

① 内部評価

計画目標に対する取り組みの進捗状況などを踏まえ、学校関係者、社会教育委員及びスポーツ推進委員からの意見を参考にしながら、事業担当課で内部評価を行いました。評価指標は目標の達成度合とし、定性的な4段階の評価としましたが、個別事業の評価にあたっては、可能な限り数値目標を意識するよう努めました。

A・・・計画どおり又は計画以上の成果が得られた

B・・・概ね目標は達成できた

C・・・課題を残し目標も十分達成できなかった

D・・・検討段階で具体の成果はなかった

② 外部評価

内部評価を行った事務事業について、学識経験者から意見を聴取して、外部評価を行い、評価結果への反映を行いました。

(学識経験者)

大矢根 ま き (教育相談員)

平 井 徹 (PTA 連合会長)

③ 教育委員会議の協議・議決

令和5年8月24日議決

④ 議会への報告書提出及び公表

教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を議会へ提出し、町民へ公表するものとします。

点検及び評価項目一覧

- 1 就学前教育・保育、子育て支援
 - (1) 就学前教育・保育の推進
 - (2) 子育て支援の充実
- 2 家庭・地域における学びの環境づくり
 - (1) 家庭・地域総ぐるみで取り組む教育環境づくりの推進
 - ① 幼児教育・家庭教育の支援
 - (2) 地域における学びと活動の場・機会の充実
 - ① 生涯学習機会の提供
 - ② 地域の教育力向上のための学習機会の提供
 - ③ 文化芸術活動の推進
 - ④ 文化財の保存・活用
 - ⑤ 生涯スポーツの機会の提供
- 3 社会の信頼に応える学校づくりの推進
 - (1) 創意と活力ある学校づくりの推進
 - ① 特色ある学校づくりの推進
 - ② 開かれた学校づくりの推進
 - ③ 特別支援教育推進体制の整備
 - (2) 揺るぎない信頼性を高める体制の確立
 - ① 教職員の資質・指導力の向上
 - ② 教員の勤務環境の改善と服務規律の徹底
 - ③ 子どもたちの安全・安心を確保する体制づくりの推進
 - ④ 学校施設・設備等の充実
- 4 自立し社会で生きる実践的な力の育成
 - (1) 確かな学力をはぐくむ教育の充実
 - ① 子どもの学習習慣の確立に向けた働きかけ
 - ② 指導方法の工夫改善の推進
 - (2) 主体的に対応する力をはぐくむ教育の推進
 - ① キャリア教育の充実
 - ② 国際理解教育の充実
 - ③ ICT教育の充実
 - ④ ふるさと教育の推進
 - ⑤ 読書活動の推進
 - (3) 地域総ぐるみで推進する魅力ある商業高校への支援
- 5 個性と健やかな体をはぐくむ教育の推進
 - (1) 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の充実
 - ① 体験的な活動の充実
 - ② 道徳教育の充実
 - ③ 生徒指導・教育相談の充実
 - (2) 健やかな心身を培う教育の推進
 - ① 健康づくり活動の推進
 - ② 食育の推進
 - ③ 安心・安全な学校給食の提供
 - ④ スポーツ機会の充実

2 点検及び評価結果

1 就学前教育・保育、子育て支援

(1) 就学前教育・保育の推進

項目	事業内容	成果・課題等	評価	担当課
①就学前教育・保育の推進	○認定こども園への支援	認定こども園を運営する社会福祉法人に対する運営事業費補助、発達支援事業費補助を行うことで、質の高い保育・教育サービスの提供を支援した。	A	子ども教育課

(2) 子育て支援の充実

項目	事業内容	成果・課題等	評価	担当課
①子育て支援の充実	○3歳未満保育料の無償化	国の無償化対象外である3歳未満の保育料について、令和元年10月から町独自政策として無償化し、保護者の経済的負担を軽減している。無償化としたことで入園希望が増加しており、保育士不足が課題である。	B	子ども教育課
	○放課後児童クラブの支援	苫前、古丹別両地区にある放課後児童クラブの運営について補助。土地柄もあり古丹別地区の利用者は少ない傾向にあるが、苫前地区の利用者は年々増加している。		
	○児童虐待の未然防止、早期発見	要保護児童対策地域協議会（苫前町あんしん生活支援ネットワーク児童部会）を開催して関係者と連携を図り、児童虐待の未然防止や早期発見に努めた。		

2 家庭・地域における学びの環境づくり

(1) 家庭・地域総ぐるみで取り組む教育環境づくりの推進

項目	事業内容	成果・課題等	評価	担当課
①幼児教育・家庭教育の支援	○体験型学習機会の提供 親子で参加することのできる体験事業と保護者が座学で子育てについて学習するセミナーの実施 ・カンガルースクール（3回） ・幼児教育セミナー（中止）	カンガルースクールは、全3回のうち2回がカヌー体験・雪遊びと外でのプログラムであり、食生活改善協議会を講師に実施する親子料理については、3組と少なかったが空間・時間をゆったりとるなど新型コロナ感染予防を意識しながら実施することができた。 幼児教育セミナーは、新型コロナ感染対策のため事業を中止した。	A	社会教育課

	<p>○家庭教育講座の実施 就学前健診時の保護者やPTAを対象とした親の学びの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前家庭教育講座（2校） ・親育講座（実績なし） 	<p>就学前家庭教育講座では、就学前健診（知能検査）実施日に新一年生を養育する保護者に対して「社会への第一歩」としてのルールや家庭の団欒の大切さを伝える機会を設けた。</p> <p>親育講座は各校PTAにより自主的に企画・運営されているが、新型コロナウイルス感染対策の影響を受け、助成金を活用した実施はなかったが、次年度以降も必要に応じて講師の情報提供など支援を行いながら、親育講座を通じた家庭教育力の向上を図りたい。</p>		
	<p>○家庭教育団体等への支援 家庭や地域が連携して子どもの育成に関わる活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会活動への支援 	<p>子ども会活動は、新型コロナウイルス感染対策の影響を大きく受け、昨年度と比較すると少しずつ活動が増えてきてはいるものの、苫前町子ども会育成連絡協議会事業・単位子ども会の活動ともに、多人数が集まる活動の実施は少なかった。苫前かるたサークルメンバーに協力いただき、対策を講じながら子どもかるた講習会を実施することができ、子どもかるた交流大会も開催することができた。また、かるたでは管内大会を勝ち抜き、全道大会に出場することができ、子どもたちに貴重な経験を積ませることができた。</p>		

(2) 地域における学びと活動の場・機会の充実

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
<p>①生涯学習機会の提供</p>	<p>○世代別学習等機会の提供 多様な学習の機会として、学級や各種講座を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年少女体験教室【TDK】 (11回) ・公民館講座 少年向け(含自転車ツーリング) (6講座) 中高生向け(2講座) 成人向け(5講座) ・シニアスクール(10回) 	<p>少年少女体験教室(TDK)は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながらの実施となったがすべての回を充実した中で行うことができた。参加した児童は1年間多くの体験を通じて、下級生の面倒をみることや積極的に取り組む姿勢など大きく成長した。</p> <p>シニアスクールは、1名増の8名となり楽しく活動を行った。特に学級生が企画することに積極的になり参加に意欲的であった。今後も参加者を増やすことだけでなく、相互のコミュニケーションを図りながら楽しい運営に努めていきたい。</p> <p>公民館講座は新型コロナウイルス感染対策の影響もあったが、新たに中高生向けに講座を開催するなどの対応ができた。特に少年向けの講座は充実した内容のものを提供できた。今後も町民の講座内容のニーズの把握や講座開催の手段・方法、また新たな参加者及び講師の発掘が課題である。</p>	<p>A</p>	<p>社会教育課</p>

<p>②地域の教育力向上のための学習機会の提供</p>	<p>○地域の教育に関する学習機会の提供 地域ぐるみで青少年を見守る活動並びに地域教育力向上のため研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を見守る住民のつどい（7月） ・ふるさと教育セミナー（11月） 	<p>地域を見守る住民のつどいは対面とYouTubeライブ配信のハイブリッド型で開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症が町内で拡大し、急遽YouTubeライブ配信のみの完全オンライン開催となった。参加者の顔が見えない状況での開催となり講師としても難しかったように感じたほか、対面型の開催と同様の時間では長すぎるという意見もあったため、開催方法によっては時間の短縮等も検討していきたい。</p> <p>ふるさと教育セミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を徹底し、対面とYouTubeライブ配信のハイブリッド型で開催した。音声や映像も問題なく、質問受付ツールを活用してみるなど工夫をして実施できた。</p> <p>両セミナーの内容について、高い評価をいただけたため、今後も地域住民のニーズに寄り添える内容で開催していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>社会教育課</p>
<p>③文化芸術活動の推進</p>	<p>○各種芸術鑑賞事業への支援 住民との協働による各種芸術鑑賞事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能「落語会」（2月） ・プレミアムものまねLIVE in とままえ（2月） <p>○文化団体への活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会への支援 ・町民参加型演劇への支援（中止） ・郷土史研究会への支援 	<p>今年度の鑑賞事業は2月に集中したこともあり、落語会及びものまねLIVEと連動してPRすることができたため、双方の事業に他町からの人を呼び込むことができた。</p> <p>特にものまねLIVEはコロナ禍の事業展開として2回公演での実施やグーグルフォームを用いて全席指定事前申し込みを取り入れるなど、工夫しながら住民に鑑賞機会を提供することができ好評を得ることができた。</p> <p>文化協会への支援では、町民舞台発表会は中止となったものの、加盟団体の記念発表会への支援を行うことができた。</p> <p>町民参加型演劇については、コロナ禍に鑑み中止となったが、地域文化活動の活性化を図る取り組みであることから継続して支援していきたい。</p> <p>郷土史研究会への支援では、一部事業が中止となったが、引き続き研究会会員の学習機会などを提供していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>社会教育課</p>
<p>④文化財の保存・活用</p>	<p>○施設の管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館等の運営並びに郷土史研究会と連携した事業の実施 ・資料館特別展 「道北地区の文化財展」 (道北博物館協議会巡回展) ・地域学校協働活動との連携 	<p>資料館特別展は、道北地区博物館等連絡協議会巡回展を活用し「道北地区の文化財展」を開催し、町民に北海道の歴史や文化等に触れる機会を提供することができた。</p> <p>また、郷土史研究会の協力により地域学校協働活動、高校の地域学での郷土資料館の活用により学校への学習支援を行い、郷土に関する学習を推進することができた。</p>	<p>A</p>	<p>社会教育課</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○指定文化財、埋蔵文化財の管理 ・文化財及び包蔵地の管理 ・くま獅子保存会の支援 	<p>北海道指定文化財及び町内包蔵地の現地確認を行い、埋蔵文化財の管理、資料の保存が適正に管理されていることを確認した。</p> <p>また、無形文化財であるくま獅子舞の保存活動として、練習及び発表機会の創出を行い、設立50年の記念発表会の開催を支援することや、苫前小学校でのくま獅子舞に係る体験活動は、くま獅子保存会の協力を得て実施することができた。</p>		
⑤生涯スポーツの機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○健康づくりの実践、運動の習慣化 楽しみながら健康の保持増進や体力向上ができるスポーツ事業の実施 ・チャレンジデー2022 ・ジュニアスイミングスクール ・レベルアップスイミング教室 ・健康づくり支援事業（7回） ・ディスフレクト最強決定戦 ・とままえ春のニュースポーツまつり 	<p>新型コロナウイルス感染拡大による影響も一部あったが、様々なスポーツ体験を実施することができた。</p> <p>ディスフレクト大会については、事前練習会の実施により、新規参加者の取り込みには成功したものの、参加者は予定数を下回った。</p> <p>また、ニュースポーツの取り組みとして「とままえ春のニュースポーツまつり」を実施したが、小学生のみの参加にとどまったため、実施場所、時期などを検討し、様々な世代が体験できるよう継続実施としたい。</p> <p>チャレンジデー2022については、コロナ禍であったが周知にSNSを活用し、苫前3丁目線を利用したウォーキングイベントの創設など参加者増に向けた取組により一定程度の成果も見えたことから、住民がウォーキングなど個人で継続できる取り組みとなるよう実施内容を検討していきたい。</p>	A	社会教育課

3 社会の信頼に応える学校づくりの推進

(1) 創意と活力ある学校づくりの推進

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
①特色ある学校づくりの推進	○校長会議・教頭会議	校長会議・教頭会議を毎月定期開催し、教育委員会からの指示伝達を行うとともに、各学校における課題や要望について情報共有するなど、学校管理職との連携を深めた。	A	子ども教育課
	○地域学校協働活動による体験学習	<p>コロナ禍でありながらもできるだけ学びの場の確保に努めるため、地域の人材や関係機関との調整をすることができた。</p> <p>各学校との連携を図り、地域人材の効果的な活用がなされているものの、新たな指導者の確保などに課題がある。</p>		社会教育課

②開かれた学校づくりの推進	○学校運営協議会 (コミュニティ・スクール)	会議は年1回のみで開催にとどまったが、次年度以降の組織体制について検討を行い、より機動的な仕組みを構築し、具体的ミッションの明確化を図った。	B	子ども教育課
	○学校からの情報発信	各校における各種の活動を住民に広く周知するため、学校だよりの町内回覧のほか、学校ホームページを積極的に更新し情報発信に努めた。		社会教育課
	○地域学校協働本部	地域学校協働本部は、学校運営協議会の会議に併せて実施した。実践活動としては、学校と地域を結びつけるための活動がこれまでどおり継続できているが、一部で講師への負担感が大きくなっている活動もあることから、学校との調整の際に配慮してもらう必要がある。 また、会議の内容が報告のみとなっており、地域からの声を拾い上げ、意見や情報交換を積極的に行う場としていきたい。		
③特別支援教育推進体制の整備	○就学指導・相談	各機関や団体が実施している就学指導相談事業や専門家チームによる巡回相談の活用、保護者や学校との面談を行い、円滑に就学支援を行った。 各校においては、特別支援教育コーディネーターや、校内委員会を設け、学校全体で支援する体制整備を進めている。	A	子ども教育課
	○教育相談員（特別支援相談）の設置	特別支援教育に関する相談員を設置し、就学児童に係る支援検討会議を開催、就学指導等における相談体制を強化した。		
	○特別支援教育地域連携専門部会	支援検討会議を適宜開催、配慮や支援が必要な児童生徒に対する支援体制の強化に努めたが、関係者の理解や相互の連携をより深めるための研修を実施する必要がある。		

(2) 揺るぎない信頼性を高める体制の確立

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
①教職員の資質・指導力の向上	○教職員の研修	各種研修事業や研修機関への参加励行、研究協議会への活動支援を行い、教職員研修の充実につなげた。遠隔による研修方式の定着により、研修参加の頻度が高まっている。	A	子ども教育課
②教員の勤務環境の改善と服務規律の徹底	○働き方改革への取り組み	苫前町立学校働き方改革計画（第2期）に基づき、教職員の在校等時間の見える化を進めるとともに、業務改善を推進した。 ・校務支援システム ・タイムレコーダー ・学校閉庁日 ・部活動休養日 ・スクールサポートスタッフの配置 など	A	子ども教育課

	○服務規律の徹底	文書や会議等を通じて、服務規律や情報管理等に関する注意喚起を行った。道内において教職員による不祥事が発生した際には、随時注意喚起の通知を発出し、服務規律の徹底に努めた。		
③子どもたちの安全・安心を確保する体制づくりの推進	○通学路の安全確保	学校において、地域安全マップの作成、街頭・巡回指導、安全教室を実施するなど、安全体制の整備を図った。また、道路管理者や警察等と連携した通学路安全点検を実施した。	B	子ども教育課
	○防災教育の推進	1日防災学校を古丹別小学校で実施し、避難訓練のほかに段ボールベッドづくりなどを体験し、防災意識の高揚を図った。		
④学校施設・設備等の充実	○学校施設の維持管理	児童生徒が快適な環境で学習することができるよう、必要な備品整備を行うとともに、随時校舎の営繕を行った。 令和5年度の中学校統合に向け、統合後の円滑な中学校運営に向け諸準備を進めた。	A	子ども教育課
	○教員住宅の維持管理	老朽化により供用不能と判断した教員住宅を財産処分するなど、中学校統合にあわせて教員住宅の整理を行った。また、要望のあった修繕箇所は随時対応を行った。		

4 自立し社会で生きる実践的な力の育成

(1) 確かな学力をはぐくむ教育の充実

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
①子どもの学習習慣の確立に向けた働きかけ	○全国学力・学習状況調査結果の活用	全小中学校が参加し、その調査結果は各学校できめ細かく把握・分析し、指導方法の改善に役立てた。	A	子ども教育課
	○英語検定受検料補助	中学生の英語力の向上と学習意欲の高揚を図ることを目的に、英語検定3級以上受検者に検定料の補助を行ったが、生徒数の減少と新型コロナウイルス感染症対策の影響で受検者数は低迷している。 ※令和4年度実績～3級受検者：5名（うち合格者3名） 準2級受検者：5名（うち合格者2名） 2級受検者：0名（うち合格者0名）		
	○学校訪問の実施	教育局指導監の経営訪問、指導主事の教育訪問を通じて、各校における教育施策の成果と課題を把握し、その改善の働きかけを行った。		

②指導方法工夫改善の推進	○教員の定数加配	苫前小学校・古丹別小学校において、それぞれ理科・算数の専科指導加配を受け、基礎基本を定着させるための指導を行い、分かりやすい授業づくりに成果をあげた。	A	子ども教育課
	○学校教育支援員の配置	学校教育支援員2名を配置し、小中学生に対するきめ細かな対応を行い、わかる授業づくりに成果をあげた。		
	○学習指導員の配置	北海道の事業を活用し、学習指導員を苫前小学校に配置し、きめ細かな授業づくりに努めた。		

(2) 主体的に対応する力をはぐくむ教育の推進

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
①キャリア教育の充実	○職場体験やインターンシップ	各学校における体験的活動に対して、情報提供や送迎などの支援を行った。単なる体験にとどまることなく、正しい勤労観や職業観を育成するための受け入れ態勢も整っている。	A	子ども教育課
②国際理解教育の充実	○英語指導助手の配置（2名）	各小中学校及び苫前商業高等学校へ英語指導助手を派遣し、国際文化に触れる授業を展開し、語学のみならず各発達段階に応じた国際理解を深めることにつながっている。	A	子ども教育課
③ICT教育の充実	○コンピュータ等の整備	1人1台端末の定着により、教員の指導方法に多様性が生まれ、児童生徒の学習方法の幅が広がっている。また、新型コロナ等により登校できない場合においても、オンラインにより、学びを継続できる環境を整備した。教員のICTスキルの向上や、その支援体制の充実などが課題となっている。	A	子ども教育課
	○ネットトラブル等の未然防止 小中学生の携帯電話・スマートフォンの使用に関する利用ルールの配付	本町ならではの「小中学生携帯電話・スマートフォン利用ルール」は、わかりやすく覚えやすい内容で家庭におけるルールづくりに寄与しており、継続して啓発活動を実施するほか、ネット依存やトラブルなどの危険性も家庭で話し合えるきっかけ作りをしていきたい。 「学校における携帯電話に取り扱いガイドライン」に基づき、地域の実情を踏まえた適切な携帯電話の使用法を示すことにより学校及び保護者に対する指導助言を図った。		社会教育課 子ども教育課
④ふるさと教育の推進	○社会科副読本の活用	社会科副読本は小学3・4年生が使用し、町内の地理や文化等を教材として必要な学習に活用されている。前回改訂から年数を経過しており、内容の更新が必要である。	A	子ども教育課

	○アイヌ・北方領土に関する教材の活用	道が作成した各種資料を適宜活用し、ふるさと教育を推進した。		
	○地域学校協働活動による地域学習	地域の産業や文化資源、人材を活用し、授業を通じてふるさとに愛着を感じる働きかけを行うことができた。		社会教育課
⑤読書活動の推進	○図書室の利用促進事業の実施 ・本とあそぼう(5回) ・図書室フェスティバル ・こどもの読書週間イベント ・小学生向け図書室利用促進事業	中止となった事業もあるが、新型コロナ感染予防を意識しながら、親子や児童を対象とした事業を中心に実施することができた。 起案時には、読書ボランティアと打ち合わせを行い、子どもたちに伝えたいことや経験させたいことを考え企画しており、今後もこの協力体制で進めていきたい。	A	社会教育課
	○アウトリーチ活動による読書推進 ・学校ブックフェスティバル (苫前小学校、古丹別小学校、苫前中学校、古丹別中学校) ・移動図書室(29回)	学校ブックフェスティバルはすべての小中学校で実施することができ、児童生徒に本との出会いや本の楽しさを伝えるきっかけを作ることができた。 移動図書室は、これまで実施してきた認定苫前こども園、認定古丹別こども園、苫前小学校、古丹別小学校で実施し、より丁寧に子どもたちへの読書推進につなげることができた。		
	○苫前町公民館図書室・苫前地区コミュニティセンター図書コーナーの整備	公民館図書室・苫前地区コミュニティセンター図書コーナーともに定期的な新刊図書の購入と徐架・除籍作業を実施し、計画どおりの整備が図られている。		
	○読書ボランティアの育成	仕事を持ちながら活動している読書ボランティアが多く、事業運営や打ち合わせの日程確保も難しい状況にあるが、密に連絡をとりながらやりがいを感じられる活動を継続できるよう協力体制を継続していきたい。		
	○学校図書の整備	整備方針(令和3～7年度)に基づき、文部科学省標準蔵書数の90%を目標に順調に整備を進めている。		子ども教育課

(3) 地域総ぐるみで推進する魅力ある商業高校への支援

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
①地域総ぐるみで推進する魅力ある商業高校への支援	○生徒の募集活動	学校長と教育長により札幌市や旭川市、道北地区等の中学校を訪問し(札幌市には町長も同行)、道内すべての公立中学校及び東京都、大阪府、桑名市の全ての公立中学校にポスターとパンフレットを送付した。 令和5年度の新入学者は6名と急減したため、次年度の出願状況によっては再編整備対象となるため、生徒募集を強力に進める必要がある。	A	子ども教育課

	○苫前商業高等学校後援会補助事業	後援会が実施する各種の取り組みに対し支援を行い、学校の魅力づくりに努めた。（通学生徒定期運賃補助、通学生徒学校諸経費補助、国際交流派遣(中止)、入学支度金支給、検定試験料補助事業）	
	○若者交流センターの運営	苫前商業高等学校後援会を指定管理者として、施設の管理運営と生徒の共同生活の支援を適切に行っている。入寮生の生活指導、健康管理など生活全般にわたり、きめ細かな配慮がなされている。	
	○地域協働学習への支援	令和4年度から導入する地域学のカリキュラム作りや試行事業への支援を行うなど、地域と学校を繋げる取り組みを強力に推進できた。 また、学校支援等に意見等をいただくための学校支援等協議会を組織し、令和5年度から同校で取り組む予定のコミュニティスクールへの道筋を作ることができた。	社会教育課
	○苫前商業高等学校支援事業 ・地域学（とままえ基礎） ・地域学試行事業（オロロンデザインⅠ） ・自転車ツーリング事業 ・TOMACAFÉ ・販売実習会「苫前市場」	地域学の1年生を対象とした「とままえ基礎」は、町内団体の協力により無事に提供することができた。2年生を対象とした「オロロンデザインⅠ」は、農業分野だけではあったが、実施機会の提供ができた。 自転車ツーリング事業は「萌える天北オロロンルート」の協力により無事に終了ができたものの、主催者である高校、教育委員会の関わりが薄くなり、高校生が自ら考え行動することにはつながらなかった。 3年ぶりに開催された販売実習会「苫前市場」は、什器の搬出入、食事の手配、冷蔵冷凍商品の受け取り・発送など計画どおりの支援をすることができた。	

5 個性と健やかな体をはぐくむ教育の推進

(1) 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の充実

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
----	-------	--------	----	-----

<p>①体験的な活動の充実</p>	<p>○地域学校協働活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動 苦前小学校 ～ 3 1 回 古丹別小学校～ 3 3 回 苦前中学校 ～ 3 回 古丹別中学校～ 3 回 	<p>学校の授業内容等に対応した稲作・酪農・水産などの地域の産業学習は定着のうえスムーズに進められている。また、新たに要望のあったインターシップの受入事業所調査などはできたものの、学校要望に応えられず中止となった事業（稲作施設見学）もあったため、今後は要望に応えられるよう努めたい。</p> <p>今後も地域学校協働活動の更なる充実に向け、学校・地域（講師）・教育委員会が連携強化を図る必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>社会教育課</p>
	<p>○体験型学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校舞台芸術鑑賞事業（音楽） 合唱「楽しい合唱とミュージカル」 ・中学校舞台芸術鑑賞事業（演劇） 演劇「銀河鉄道の夜」 ・少年少女体験教室【TDK】（1 1 回） ・アウトリーチ事業（ヒップホップダンス体験） 苦前小学校、古丹別小学校、 苦前中学校、古丹別中学校、 苦前商業高等学校 ・公民館フェスティバル（1 0 月） 	<p>小中学校とともに新型コロナ感染拡大防止に向けた対策を万全に講じた中での開催となった。小学校の鑑賞事業は、文化庁（令和4年度文化芸術による子供育成推進事業）助成事業を実施した。ワークショップでは両校の6年生が参加し楽しい思い出づくりにつながり、鑑賞した児童にも心に残る合唱となった。</p> <p>中学校の鑑賞事業は、宮沢賢治原作の演劇を楽しんだ。参加した生徒からも演技の素晴らしさやストーリーに感動した感想が多く寄せられた。鑑賞事業は小中学校の希望を優先し実施しているが、生の舞台鑑賞でしか得ることのできない貴重な機会となっている。今後も小中学校からの要望を大事にしながら、実体験から体得できる感動体験活動事業に積極的に取り組むこととしたい。</p> <p>少年少女体験教室は、充実した体験ができる事業であるため、更なる充実を図るために今後も事業担当者の一層の創意工夫と自身のスキルアップが必要である。また、苦前商業高校生ボランティアの協力は事業実施の大きな力となっており、生徒自身の成長にも繋がるため、今後も連携を密にして進める必要がある。</p> <p>アウトリーチ事業は、新型コロナ感染対策を万全にして希望があった小中高校すべてで実施できた。参加児童生徒や教職員から大変好評で、次年度開催の要望もいただいた。</p> <p>公民館フェスティバルは文化協会による町民作品展と共催で開催し、住民の活動機会の創出や体験教室的な活動を提供することができた。</p> <p>また、苦前町商工会や苦前商業高等学校などに協力要請を行い、魅力ある事業の実施に努めることができた。</p>		

②道徳教育の充実	○副教材の配布	文部科学省が作成する資料を活用し子どもの規範意識を高め、道徳教育の充実、指導を進めることができた。	A	子ども教育課
	○道徳教育推進教師の配置	各校において道徳教育を推進する担当を置き、外部研修やその校内還元などにより、指導体制の充実が図られた。		
③生徒指導・教育相談の充実	○スクールカウンセラーの活用	巡回型のスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを配置し、年間を通じて生徒や保護者への相談体制を整えた。	A	子ども教育課

(2) 健やかな心身を培う教育の推進

項目	事業内容等	成果・課題等	評価	担当課
①健康づくり活動の推進	○感染予防の指導の徹底	各小中学校養護教諭を中心として児童生徒の健康教育、感染症に対する予防措置・指導が適切に行われている。 また、国の各種補助金や制度を活用し、二酸化炭素濃度計を配備するなど、感染症を防止するための環境整備を図った。	B	子ども教育課
	○フッ化物洗口の実施	児童生徒の歯・口腔の健康づくりを推進するため、毎年フッ化物洗口を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により休止した。		
②食育の推進	○学校給食を活用した食に関する指導	栄養教諭が中心となり、食育の充実に取り組んでいる。 旬の地場産物を積極的に取り入れることにより、食への関心を高めるとともに、食事のマナーや栄養バランスのとれた食事等の指導を行った。	A	子ども教育課
	○給食だよりの発行	献立表とともに生活や食習慣に関する情報を発信し、家庭への啓発につなげた。		
	○食育に関する教科活動	基幹産業である農業や漁業についての食に関する体験活動（地学協働活動の稲作体験や酪農体験、水産加工場見学、地引き網等）を実施した。		
③安心・安全な学校給食の提供	○特色ある学校給食	リクエスト給食やバイキング給食など、提供方法に工夫を凝らし、楽しく美味しい給食を提供した。 地場産品の活用を促進するため、補助金を支出し利用率の拡大に向けて取り組みを行った。（地場産品利用率：R4～13.0%） また、水産加工業者や水稲部推進部会から食材の提供を受け、地元食材のおいしさを児童生徒に味わってもらうことができた。	B	子ども教育課

	○食物アレルギー対策	学校における食物アレルギー対策として、町教委として策定したマニュアルに基づき、食物アレルギーを有する児童・生徒を把握し安心安全な学校給食提供に努めた。令和4年度は教育研究協議会において食物アレルギーの基礎知識と学校における対応についての研修会を実施する予定であったが、新型コロナ感染対策の影響により開催を見送った。		
	○調理場衛生検査	学校薬剤師の協力のもと、学期ごとに調理場の衛生検査を実施し、安全な学校給食の配食に努めている。		
	○衛生管理の徹底	学校給食管理衛生基準に基づき、食品検査を実施した。 学校給食における食中毒の発生はなかったが、給食に異物が混入する事案が7件発生した。調理場が原因の事案も含まれていたことから、調理員をはじめ関係者に改めて注意喚起を図り、安心安全な学校給食の提供に努めていく。		
④スポーツ機会の拡充	○スポーツイベントの開催 多様なスポーツに親しむ機会の提供 ・町民マラソン大会 ・町民ソフトボール大会 ・町民フットサルフェスティバル ・海洋性レクリエーションの実施(中止) ・プールでSUP体験 ・冬遊び～エンジョイナイトin三角点～	今年度は新型コロナウイルスの感染対策を実施し、各種大会を実施することができ、様々なスポーツに親しむ機会を作ることができた。 また、「とままえ冬の大運動会」として実施していたスキー大会を、今年度は「冬遊び～エンジョイナイト in 三角点」と名称を改め、競技色を少なくし、みんなでウィンタースポーツを楽しむイベントとして開催した。 B&G財団からSUP(サップ)貸出を受け、プールにおけるSUPの体験事業を継続して実施し、中学生から大人まで幅広い世代でマリンスポーツの体験を行うことができた。 各種イベントは例年同様の日程で事業を実施しているが、参加者の状況や事業スケジュールなどが変化してきており、事業日程などを過去のイベント参加者から調査し見直す必要があるとともに、参加者の減少が続いているため、事業の告知などに工夫が必要である。	B	社会教育課
	○スポーツ関係団体への支援 ・体育協会、スポーツ少年団本部への支援 ・スポーツ表彰式 ・スポーツ講演会	体育協会では関係団体への支援として6名に指導者資格取得のための助成を行い、指導者養成を行った。 例年実施しているスポーツ表彰式は、3名1団体の表彰を行い、終了後に開催した講演会では、子どもの成長に合わせたトレーニング方法を学習することができた。 スポーツ団体への視察を実施した結果、指導者不足の団体が多く、本年度の対応ができていないことから、来年度以降の改善を検討していきたい。		

(2) 外部評価

1 就学前教育・保育、子育て支援

- ・発達支援児童受け入れに伴い、担当保育教諭の専門機関との連携など業務は多忙であり、発達支援事業補助により教育支援は充実しますが、保育士不足の解消は急務である。

2 家庭・地域における学びの環境づくり

- ・配信サービスによるセミナー等の開催は問題も多くありますがテーマ、内容については大変興味深いものばかりで、コロナ禍での町民全体の学びを止めないための努力に敬意を表したい。
- ・くま獅子保存会は、児童生徒も交えて町の伝統を守る姿勢は素晴らしいと思う。ただ、現状団員から会費を徴収して維持している側面もあるので永続的な活動を考えているのであれば助成があってもいいかと思う。
- ・各事業の参加方法にアプリを導入したのも気軽に参加できる要因の一つになったと思う。

3 社会の信頼に応える学校づくりの推進

- ・特別支援教育地域連携専門部会について、町内に放課後等デイサービスが開業し利用者は増えてきていることから町ぐるみで関係者の理解や連携を深める機会を増やせるとよいと思う。
- ・マチコミによる不審者情報など、スピーディーな情報提供は保護者からも好評である。

4 自立し社会で生きる実践的な力の育成

- ・苫前商業高等学校存続の為に多様な取組を行っていることは素晴らしいと思う。町民にも協力しやすい取組があればなお良い。

5 個性と健やかな体をはぐくむ教育の推進

- ・学校を通して地域の仕事内容や取組を子供達に理解してもらえる良い機会。また、子供達に教える方々も良い刺激になるので色々なジャンルの協働をしてもらいたい。
- ・学校給食に関して衛生面に配慮した導線が確保されていないので、パントリー設置等早期の対応が必要と考える。
- ・スポーツを通しての交流は対話よりも爽やかな精神交流ができると思うので、是非、維持又はそれ以上の取組を望みます。

(総括意見)

- ・新型コロナウイルス感染症がまだ落ち着かない中、感染対策をしながらも積極的な企画・運営を行うことで、参加することに慎重になっていた町民の意欲をかきたて始めているように感じます。
- ・これまで、様々な事業活動に関心のなかった町民も長い自粛期間の中で、新たなコミュニティに興味を抱いたり、挑戦してみたい気持ちを持った方もいるのではないかと思います。新規参加者が増える糸口になるような運営を今後も期待します。
- ・様々な魅力的な取組を常日頃からしていただき感謝。
- ・この活動が一人でも多くの町民に理解してもらえるかで、町全体の活性化に直結すると思いますので、今後とも期待しております。

3 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の構成

教育委員会は、教育長と4人の委員をもって組織される合議制の執行機関です。

委員は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は4年です。

教育長は、地方公共団体の長から議会の同意を得て任命され、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表します。任期は3年です。

教育長職務代理者は、あらかじめ教育長が委員の中から指名し、教育長が欠けたときなどに教育長の職務を代理します。

令和4度在籍者	
教育長	開 発 法 起 (令和03年10月1日～令和6年9月30日)
委員	池 田 民 治 (平成30年10月1日～令和4年9月30日)
教育長職務代理者	坂 川 資 樹 (令和元年10月1日～令和5年9月30日)
委員	上 田 卓 司 (令和02年10月1日～令和6年9月30日)
委員	仁 木 綾 香 (令和03年10月1日～令和7年9月30日)
委員	今 浩 二 (令和04年10月1日～令和8年9月30日)

現在籍者
開 発 法 起 (令和03年10月1日～令和6年9月30日)
坂 川 資 樹 (令和元年10月1日～令和5年9月30日)
上 田 卓 司 (令和02年10月1日～令和6年9月30日)
仁 木 綾 香 (令和03年10月1日～令和7年9月30日)
今 浩 二 (令和04年10月1日～令和8年9月30日)

(2) 会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で定められた、教育委員会が執行・管理する事務のうち、教育長に委任されていないものを審議しました。

会議回数	定例会7回、臨時会1回
審議件数	48件(報告14件、議案34件)

資料編

苫前町教育目標 (平成3年2月制定)

健康で、実行力のある人

- 北方生活・風土に即した体育、スポーツにはげみ、その生活化をはかる。
- 体力・気力の保持増進をめざして、継続的に自らをきたえる。
- 保健・安全に対する知識を高め、健康な生活を維持する。
- 公害や災害について理解を深め、生命の安全保持につとめる。
- 家庭や社会における保健衛生について理解を深め、強い意志をもって、その改善につとめるとともに、よい習慣を身につける。

個性を生かし、創意工夫する人

- 互いの個性を尊重し、創造の喜びを感じるとともに、生活に誇りと生きがいをもつ。
- 郷土の近代化をめざし、創造的な知性と技能を積極的に身につけ、その活用をはかる。
- 生活を改善するために情報を的確に判断し、活用する能力を身につける。
- 自然や社会に対する科学的知識を深めて、生活の向上をはかる。
- 郷土の習慣や生活様式を改善し、明るく合理的な生活様式を工夫する。

心豊かで、思いやりのある人

- 自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心を持ち、ゆとりのある生活をいとなむ。
- 正義を愛し、社会連帯の自覚をもって奉仕活動に進んで参加する。
- 互いに信頼し合い、きまりや約束を守って社会生活の向上につとめる。
- 家族相互の愛情、思いやりと尊敬とによって、明るい家庭を築くことにつとめる。
- 自分の利益だけにとらわれることなく、互いの立場を認め合い、常に他人の幸福をも考えて行動し理想社会の実現につとめる。

勤労意欲をもち、責任を果たす人

- 適切な職業を選択し、正しい勤労観を持ち、生涯の喜びをもつとともに生活に生きがいをもつ。
- 仕事の役割と責任を自覚し、自主自立の生活をいとなむ。
- 職業の社会的価値を認識し、郷土の発展につくす。
- 職業についての必要な技能を習得し、仕事を効率的にする。
- 郷土の生産活動を理解し、限りある資源を大切にして、生産を高める意欲をもち、改善につとめる。

郷土を愛し、国際社会に生きる人

- 郷土の自然に親しみ、動植物を愛護し、環境美化の推進につとめる。
- 郷土の文化活動に積極的に参加し、個性豊かな文化の創造につとめる。
- 優れた芸術文化の理解と鑑賞を通じて教養を高める。
- 余暇を善用し、うるおいのある生活をいとなむ。
- 郷土の歴史と文化を正しくうけつぎ、その発展と創造につとめるとともに国際社会に生きる日本人としての資質を身につける。

教育委員会各課の事務分掌

子ども教育課

○ 子ども教育係

- ア 委員会の会議並びに秘書及び交際に関すること。
- イ 規則、訓令、告示等の制定改廃並びに法規の調査及び解釈運用に関すること。
- ウ 公示、示達に関すること。
- エ 訴願、訴訟、和解、異議申立及び請願陳情に関すること。
- オ 公印の管守に関すること。
- カ 事務局内の事務の総合調整及び連絡推進に関すること。
- キ 関係各機関との連絡調整に関すること。
- ク 表彰に関すること。
- ケ 委員会所管職員(非常勤特別職及び臨時職員を含む。)の任免、給与、服務、分限、公務災害補償その他人事に関すること。
- コ 町議会の提出議案に関すること。
- サ 教育費予算に関すること。
- シ 教育施設(教育の用に供する用地・建物その他の施設で委員会が管理するものをいう。以下同じ。)の取得の申出、建設計画、営繕及び保全の計画及び実施、調査、統計及び管理等に関すること。
- ス 学校の設置及び廃止に関すること。
- セ 通学区域の設定、変更及び廃止に関すること。
- ソ 学校教職員の研修に関すること。
- タ 学校教職員の任免、服務、分限その他人事に関すること。
- チ 学校教職員の給与等に関すること。
- ツ 学校教職員の福利厚生に関すること。
- テ 学校教職員の保健管理に関すること。
- ト 学校教職員の職員団体に関すること。
- ニ 教育関係施設等補助金に関すること。又 教材教具の整備に関すること。
- ネ 独立行政法人日本スポーツ振興センターに関すること。
- ノ 教科用図書の採択及び教材の取扱いに関すること。
- ハ 児童、生徒の就学、転学及び退学に関すること。
- ヒ 学齢簿の調製、整理及び保管に関すること。
- フ 学級編制に関すること。
- ヘ 児童、生徒の福利厚生に関すること。
- ホ 児童、生徒の就学援助に関すること。
- マ 児童、生徒の安全、保健衛生に関すること。
- ミ 学校給食に関すること。
- ム 児童・子育て等の支援、相談に関すること。
- モ 認定こども園、放課後児童に関すること。
- ヤ その他学校教育に関すること。
- ユ 他課の所掌に属さないこと。

社会教育課

○ 社会教育係

- ア 家庭教育に関する事。
- イ 少年教育に関する事。
- ウ 青年教育に関する事。
- エ 成人教育に関する事。
- オ 高齢者教育に関する事。
- カ 視聴覚教育に関する事。
- キ 国際理解教育に関する事。
- ク ボランティアに関する事。
- ケ 生涯教育に関する事。
- コ 交流活動及びコミュニティ運動に関する事。
- サ 趣味及び余暇利用活動に関する事。
- シ 講座の開設及び講演会、その他集会の開催に関する事。
- ス 社会教育団体の育成等に関する事。
- セ 社会教育委員及び公民館運営審議会に関する事。
- ソ 青少年問題協議会に関する事。
- タ 社会教育施設の整備及び管理運営に関する事。
- チ 公民館図書室に関する事。
- ツ 社会教育のための必要な設備機材及び資料の提供に関する事。
- テ 社会教育に関する調査及び研究に関する事。
- ト 社会教育計画に関する事。
- ナ 文化芸術振興に関する事。
- ニ 文化団体の指導育成に関する事。
- ヌ 文化財専門委員に関する事。
- ネ 文化施設の整備及び管理運営に関する事。
- ノ 文化財の調査及び保護又は管理に関する事。
- ハ 文化資料の調査及び収集に関する事。
- ヒ スポーツ振興に関する事。
- フ スポーツ団体の指導育成に関する事。
- ヘ スポーツ推進委員に関する事。
- ホ スポーツ施設の整備及び管理運営に関する事。
- マ その他生涯学習活動、社会教育、文化、スポーツ及びスポーツ施設に関する事。

令和5年度実施 令和4年度教育委員会事務事業点検・評価報告書
(令和5年8月)

苫前町教育委員会

北海道苫前郡苫前町字旭37番地の1
電話 0164-64-2384 F A X 0164-64-2142
E-mail kodomo@town.tomamae.lg.jp